

今日は、つのぶえ保育園の全園児と全職員で お隣の「成田教会」へ 行きました。毎年 この時期には、世界中のキリスト教会や 施設等に於いて、教会の動きの始まり、言わば「教会の誕生日」を お祝いをする『ペンテコステ（聖霊降臨日）』という礼拝が行われます。“ペンテコステ”とは、ギリシャ語で“50番目”を意味する言葉ですが、これは、イエス・キリストが復活されたイースターから数えて50日目にキリストの約束が成就した出来事を覚えて定められた、『五旬節』『五旬祭』とも言われている 記念日です。

神の子イエス・キリストは、人の子としての生涯を33年間 生きられましたが、心無い人々の嘘や妬みなどにより罪人とされ 十字架上で壮絶な死を遂げられた後 3日目の朝に死から 生き返られました。復活されたキリストは、それからしばらくの間、その確かな証として、十字架に打ち付けられて出来た際の手や足の大きな釘痕や 槍で刺された時の脇腹の傷痕を示され、目に見える姿を通して、神さまの存在と愛を 明らかにされました。復活の主に出会えた者達は 信じ難いその事実をありのままに受け入れ、イエスさまと共に再び生きられる 希望と喜びに満ちあふれました。ところが、復活の朝から数えて40日目、愛する弟子達を集められると『わたしは世の終わりまでいつも あなたがたと共にいます。』との約束を残し、彼らの目の前で 真の父である 天の神様のもとへ 昇って行かれました。

（これを昇天日といいます）この時「私が天へ帰った後、私の代わりに必ず“助け主”が来るから安心していなさい。助け主は、あなたがた人の目には見えないけれど それぞれの心に注がれ 生きて働く 天の父である神の力です。」と、キリストが約束された この力が『聖霊』です。「すべての創造主である天の神さま」、「そのひとり子イエス・キリスト」、そしてこの「聖霊」、これら3つは それぞれ かたちは異なっていますが、その“基”は1つ（神）であるという理解から『三位一体』と表現されています。

さて、昇天を目の当たりにした弟子達は、愛する師 イエスさまがいなくなってしまった深い悲しみで打ちひしがれていましたが、やがて その10日後に、この聖霊を与えられる衝撃の瞬間が 間もなく訪れるのでした。それは 復活の出来事から 50日目のことでした。喪失感と絶望感で途方に暮れる日々を、無気力に過ごしていた弟子達の身に突然 起こった出来事 その詳しい様子が、新約聖書の中の『使徒の働き 2章1-4節』で 次のように記されています。『五旬節の日になって、みなが一つの所に集まっていた。すると突然、天から 激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると 皆が聖霊に満たされ、御霊が話させて下さる通りに他国の言葉で話し出した。』

受胎告知、処女降誕、死からの復活、昇天など、数々のイエスさまの出来事と同様 これもまた、人にとっては不可能で 不可思議、人知を 遥かに超える 全く信じ難い事実です。しかし その場に遭遇した弟子達の心には、奇蹟的な変化が起こったと記されておりあります。その時を境に まるで抜け殻だった身体には 別人のように力が 漲り、まなざしは 明るく輝き出し、それぞれが 神さまへの信仰を大胆に証し始めました。イエスさまへの愛を語り合い、互いに祈り合い 互いを励まし合う 熱い“同志”へと 一転しました。弟子達は皆、神さまの力（聖霊）によって、自らの心を強くされ、信じる希望が 生きる力になりました。

そして、いつも共にいて諭し導いてくださった 愛する主イエス・キリストの御言葉を想い  
「もし、あなたがたのうちのふたりが、どんな事でも 地上で心をつにして祈るなら、  
天におられるわたしの父は、それを かなえてくださいます。ふたりでも三人でも、  
わたしの名において集まる所には、私もその中にいるからです。(マタイ18:19-20)」  
と、かつて 自分達に語られたイエスさまの その約束に応えるべく、皆で心をつにして  
祈り合うようになりました。やがて皆は 個々の家から1つの所に集まり、すべてのものを  
共有し 分かち合いながら 生活を共にするようになりました。そこから それぞれが一斉に  
イエスさまの語られた御言葉を心の糧にして、あちこちへ伝えるため 外へ出て行きました。  
神さまの愛を示すために 一人の人として生まれ、人には決して出来ない死という暗闇から  
よみがえられたイエス・キリストの生涯に伴い、神の子を確信した弟子達は、その生き証人  
として、自分達が経験したすべてのことを 人々に向かって語り伝えながら歩いたのでした。  
彼らの信仰による大胆な言葉の数々は それを聞く人々の心に 希望の光や力を与えました。  
まさに それは、イエスさまの働きであり、キリスト(救世主)としての 生き方そのもの  
でした。弟子達の力ある伝道は エルサレムに留まることなく 近隣の町や国々までに及び、  
大勢の人々へと 語り伝えられ、瞬く間に 広がっていきました。弟子達は 働きを終えては  
仲間の元へ戻り、集まっては祈り合い 讃美し合い 励まし合い 再び働きのために出かけて  
行きました。この拠点となった 祈りの場所が 教会の原点です。時には 疲れたり挫けたり  
したことでしょう。その度に イエスさまが教えてくださった“主の祈り”を 声を合わせ  
献げたことでしょう。十字架に掛かれる前夜、最後の晩餐の前に弟子達ひとりひとりの  
足を洗われた姿を思い返して「わたしがしたように あなたがたも互いに足を洗いなさい」  
と語られた 穏やかで優しい御顔を心に浮かべて 互いに実践し合っていたかもしれません。  
弟子の中の1人であったペテロは、宣教活動をしながら 何度も牢に入れられてしまいます。  
キリスト教に対する激しい迫害に遭い、最期はイエスさまと同じ十字架刑で 殉教しました。  
けれども 彼はどんな時も 神さまを信じ、人を愛し、仲間を想い、イエス・キリストと共に  
歩み続けました。揺るがない心で励まし合った弟子達の 熱い祈りと希望があったからこそ  
私達日本人を始め、世界中の国々の人々は皆、今 現在もこうして 聖書を手にすることが  
出来ているのだと 神さまの この世に対する永遠の御心と深い恵みを改めて想われます。  
つるびえ保育園の、今年の ペンテコステ礼拝は、これまでの「教会のお誕生日」という  
お祝いの行事として迎えるより、当時の弟子達の その想いに 心を馳せたいと 思いました。  
特に 年長組の子ども達は、聖書のお話が大好きで、神さまへの想いや お祈りも 一心です。  
仲間と声を合わせて讃美することの喜びや 心を合わせて祈ることで、与えられる安らぎや  
勇気を感じた、何千年も昔の弟子達と同じような想いを 皆で一緒に感じ合いたいと願い、  
今年は“教会の雰囲気を感じる”経験と その時に味わい生まれるひとりひとりの感性を  
大切にしたいと 思いました。成田教会の礼拝堂に入ってから 少しの間でしたが 雰囲気を  
自由に感じられる時間を持ち、その後 教会員の方々と礼拝を守りました。子どもも大人も  
共に心を合わせ、祈り 讃美できましたこと、心から感謝でした。また、教会の始まりと  
なった ペンテコステの出来事のお話を通して、当時の弟子達に 気持ちを重ねられたこと、  
そして何より、教会とは 皆が心をつに出来、神さまを近くに感じられる嬉しい場所だと  
子ども達が実感できたことは感動でした。遙か遠い昔、遙か遠い地で、弟子達に現された  
聖霊を、今を生きる私達の心にも変わることなく注ぎ続けてくださる 神さまに感謝します。  
世界中の人々の心に 平和と希望を抱き合うことが出来ますよう お祈りします。(石田 記)